『時 事 直 言』No.1833　2026 年 10 月 23 日**国会議員号**
[HP] http://chokugen.com/
[FAX] 03-3956-1313　　[mail] info@chokugen.com
[X(旧 twitter)] t_masuda2019/　[instagram] t.masuda2026
[Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

21 世紀のヤルタ会談始まる

トランプ、習近平、プーチンの三巨頭会談の準備が進んでいる。
11 月に中国（深圳）で開かれる APEC（アジア太平洋経済協力会議）、12 月アメリカ（フロリダ）で開かれる G20 で三者会談が行われる。
三者会談を呼び掛けたのはプーチンである。
アメリカと中国の間では、オバマ政権以来「G2 構想」（米中に大国による国際秩序）が議論され二期トランプ政権で G2 は国家安全保障基本戦略になっている。
アメリカと中国は世界の経済大国であるが、ロシアの GDP は 1.8 兆ドルであるから、アメリカの 32.6 兆ドル、中国の 21.5 兆ドルに比べると小国である。
ところが核弾頭保有量を見るとロシアは 5,420 発、アメリカ 5,042 発、中国 620 発であるからロシアは大国である。
プーチンは度重なるトランプと習近平会談で今後の世界秩序に責任を持つ G2 構想が現実化していくのを見ながら参画のチャンスを伺っていた。
プーチンはウクライナ戦争でそのチャンスを作った。
三者会議の主題について、ウクライナ戦争を始めた張本人であるプーチンの立場としては国際秩序に関わる問題（核軍縮）は持ち出せなかったので、あえてウクライナ戦争にしたのである。
トランプが三者会談の主題をあえて核軍縮にしたのはプーチンの意を汲んでのことである。
すなわち、ウクライナ戦争の為の会議ならロシアは小国扱いになり、核軍縮なら大国扱いになるからである。
ヤルタ協定（1945 年 2 月 4-11 日）はルーズベルト（米）、チャーチル（英）とスターリン（ソ連）の三巨頭の間で行われ、東西ドイツ分割支配、ソ連の対日参戦とその代償としての樺太、千島列島（北方領土）の対ソ連割譲と平和維持機関としての国連設立などを決めた。
ヤルタ協定とはドイツ、日本、イタリアなど戦争当事国の主権を無視して一方的に戦後の秩序を決めたものである。
トランプ、習近平、プーチンの三巨頭が戦争当事国の主権を無視してウクライナ戦争、イラン戦争の戦後を決めるのは歴史の必然である。
強権による世界支配に異議を唱える者は古かったり斬新であったりする洋服ばかり見て、良いとか悪いとか騒いでばかりで肝心の裸体を見ようとしない。
トランプは素っ裸で歩いているので分かり易く、良いも悪いも議論の余地はないのではないか。
増田塾で「政治力学」を勉強して下さい。

★小冊子 Vol.162 は先行受付中！
お申し込みは https://www.musrjec.com/ より

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスダ U.S.リサーチジャパン株式会社（FAX：03-3956-1313）までお知らせ下さい。